

岐阜薬科大など

脂質代謝遺伝子 記憶機能を解明

精神疾患新薬に期待

進めば、そううつ病やアルツハイマー病など精神疾患の新薬開発の手掛かりになる」と期待を寄せる。

岐阜薬科大、神戸大など五大学の研究グループは十四日、脂質代謝の働きが知られていた遺伝子「ジアシルグリセロールキナーゼβ」に、記憶と関係する機能もあることを世界で初めて突き止め、同日付の米オンライン科学誌「PLoS ONE」で公表したと発表した。岐阜薬科大の原英彰教授(薬効解析学)は「さらに解明が

シアシルグリセロールキナーゼβは、学習や記憶に重要な役割を果たす脳の「海馬」と呼ばれる部分に多く存在する。研究グループは、この遺伝子を完全に除去したマウスを使い、迷路実験などを通して正常なマウスと記憶力の違いを比較。その結果、欠損マウスは記憶力が著しく低いことが分かったという。

欠損マウスでは、神経細胞をつなぐシナプスの突起部分に変形していることも判明。そううつ病などの精神疾患でも同様の変形がみられるといい、記憶に関係する新たな遺伝子を突破口に研究が進む可能性があるという。